

○事業名：アニメ脚本と脚本家のデータベース構築

○団体名：一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

○事業概要

1. アニメ脚本等の現物に関する事業——アニメ脚本資料の散逸防止の必要性

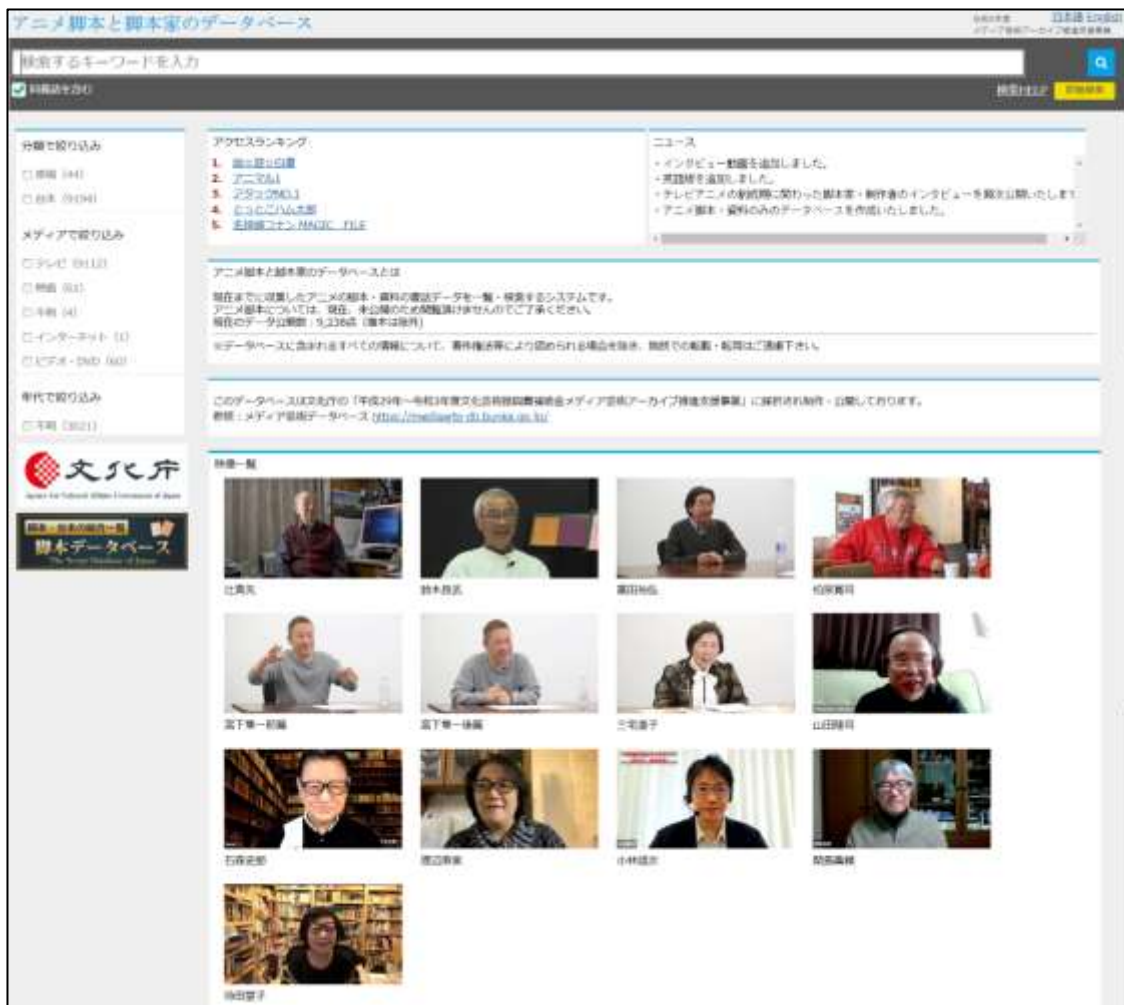
日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムでは、平成 17(2005)年から放送番組の脚本を中心に収集し、脚本のデータベース作成を実施している。収集した脚本資料にはアニメーションや特撮（以下アニメとする）の関連資料が1割近く含まれている。アニメ脚本に関してはメディア芸術分野の資料と共に保管およびデータベース化される可能性を考え、平成 29(2017)年度より本事業を企画し「アニメ脚本と脚本家のデータベース構築」をおこなっている。

脚本はアニメ制作の設計図となる貴重な資料であるが、長期保存を予定していないため紙質が悪く、ガリ版印刷のものも含まれ、インクの退化など劣化が激しい。出版物ではない脚本は、発行部数が少なくスタッフや制作会社を中心に保存されるのみで、転居などにより散逸消失する危険が大きい。現物収集およびデジタル化作業は必要かつ緊急性を有する。

現在までに収集したアニメ脚本・資料は 9,754 件（コピー台本、ポスター、絵コンテ含む）。作品数は約 580 タイトルに及ぶ。

本事業では、収集した資料の書誌情報を「アニメ脚本と脚本家データベース」として Web で公開している。<http://animedb.nkac.or.jp/>（下図 TOP ページ）

令和元年(2019)年度、英語版サイトを公開。令和 3(2021)年度、モバイル版の公開を行なった。令和 4(2022)年度は、アニメのほかドラマ作品の中から特撮作品を切り分け、データベースに追加掲載予定。



2. アニメ脚本資料の劣化・消滅防止に関する事業——デジタルと証言保存の必要性

① デジタル化保存の必要性

【サムネイル用・表紙のデジタル化例】



昭和期の脚本は紙質も悪く劣化が激しく、黄ばみ、酸化、カビ跡も多い。ガリ版印刷のためインクの退化の危険もある。

脚本の中には、企画意図の記載のほか主題歌の歌詞が記載されているものもある。

一方、キャストやスタッフの記載は少なく調査が必要となる。

絵コンテや直しの書き込みがある脚本も多い。

② 脚本家の証言・著作権典拠の必要性・緊急性

アニメ史の継承のため、テレビアニメ草創期の脚本家やスタッフからの証言は大変重要である。作家の高齢化に伴い、貴重な証言録取、公開は喫緊の課題である。

また脚本家は多くの筆名を持つ人が多く筆名から著作権者を特定できない場合もある。著作権者の把握は作品の二次利用にも有益であり著作権の典拠資料としての意味も有する。



※筆名例

脚本家・五武冬史氏（ペンネーム）

本名・鈴木良武氏の名前でも多くの作品を執筆している。

3. アニメ脚本データベース構築・発信準備事業——アニメ脚本データベース構築の必要性・緊急性（非常時の文化政策の有用性）

アニメに関する関心は高くデータベース化、国際発信の需要が高まっている。

しかしアニメ動画については、映像、原作マンガとの関係、声優、音楽など権利が複雑に絡んでおりデータベース上での公開が難しい。一方、アニメ脚本については、原作者・脚本家の了承によりデータベース公開が比較的安易である。あらすじを作成して加えることで、新たな著作物として権利関係もクリアできる。

データベースの公開は、著作権専門事例を多く手掛ける弁護士・福井健策氏の監修を受けて行っている。

令和元(2019)年10月の台風による川崎市市民ミュージアムの被害のほか、新型コロナウイルス禍のような非常事態においても、資料のデジタル保存およびオンライン利用による文化発信は有用性が高いと考えている。

本事業の「アニメ脚本と脚本家のデータベース」では、収集した資料の書誌データをWeb公開している。データベース掲載件数8,579件（複本除外）。

サイトの右上の「日本語」「English」の選択ボタン日本語と英語の切り替えができるようになっており、英語版も公開している。Wikipedia を自動的に表示する機能をつけている。

【詳細ページ/日本語】



【詳細ページ/英語】



4. 活用・発信の連携体制による社会的効用

①Japan Content Catalog (JACC®) との連携 / ジャパンサーチへの参加

書誌データは、映像産業振興機構 (VIPO) が運営する JACC サーチと連携し、国際発信を行っている。また、JACC サーチを通じ、ジャパンサーチにも書誌データの提供公開を開始。様々な分野を横断検索することで、需要の高いアニメ資料情報の海外発信が可能となる。

②教育活用・社会活用

- ・子どもたちの創作活動を目的とした教育活用

例：「ワンミニット・ムービー」は iPad を使って、写真や動画を編集し、1 分間の映像をつくるワークショップ。 <https://1min.work/>



- ・高齢者向けの「回想法」として、バラエティ番組や脚本を活用した講座を港区内で2回実施した。今後はアニメや特撮資料を活用した講座を検討中。



- ・放送ライブラリー（横浜）の主催によるミニ展示

<https://www.bpcj.or.jp/>

放送ライブラリー内の展示スペースに、テーマを決め3か月ごとに二十数冊の脚本を展示。展示作品の説明文を冊子にして配布している。

【アニメ脚本の展示例】

「懐かしのテレビアニメ」（2020年1月～6月 ※コロナ禍のため途中休館期間を含む）



【特撮脚本の展示例】

「特撮ヒーロー 光の国から永遠に・・・!」（2022年1月～3月）



【事業の流れ】

『アニメ脚本・脚本家データベース』概要図

